第3515図

いばら科

やつぶさうめ

一名ざろんばい

Prunus Mume *Sieb. et Zucc.*
var. pleiocarpa *Maxim.*

ウメの一変種で稀に栽植される。小喬木、小枝を多く出し、2年目の枝は表面光沢があり、膚は硬く、嫩枝は無毛、時に微毛がある。葉は互生し、広卵形又は円状広卵形、先端尖って尾状をなし、基部は円形、縁辺に細鋸歯がある。花柱子房以外の形状はウメと異らない。前半の葉の腋から 1-3 個宛蕾を出し、早春半八重の紅花を葉に先立って開く。雄芯多数がありその中心に3-5個の細長な花柱を出す。花柱の基部は有毛の痩長な子房となるが、この部は半ば融合している。このため花後1花托上に3-5個の通常品より小型の果実を相接して生ずる。和名八房梅は実の多くなるウメの意。座論梅は実が完熟せず一つずつ落ちて行くのを座論にたとえ名附けられた。

第3516図

いばら科

りょくがくばい

Prunus Mume *Sieb. et Zucc.*
var. viridicalyx *Makino*

ウメの一変種。緑萼梅の意。アオヂク（青軸）とも呼ばれ、萼片は帯黄淡緑色、花中一点の紅味もなく、純白5弁の花はウメの諸品種の中、品位最高である。別に八重咲の一品種があり、ヤエザキリョクガクバイ（八重咲緑萼梅）forma plena *Makino*の名を有する。萼片の他はウメと同様である。昨年の枝は光沢があり、緑色、花はその腋に1乃至3個開き、芳香があり、萼の筒部は短鐘形、先端5裂して広卵形円頭、背面微かに凸面をなす5裂片となる。花弁は略円形、基に短爪があり、多雄芯、1雌芯を具える。子房に密毛があり、花柱は細く直立し、柱頭は小頭状で、上面はやや平たく、上面に1溝があり、花柱の1側の浅溝に続いて子房の側面に至る。これが後核果の浅縦溝となる。

第3517図

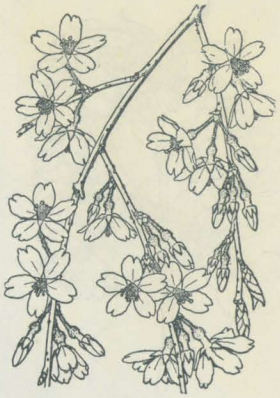
いばら科

はなもも

Prunus Persica *Batsch.* forma

モモの園芸品種で、庭樹或は切花用として諸所で栽植せられる。落葉小喬木で、樹高2-3m許、枝は直線的に伸び、無毛。嫩枝は緑色で粘質があり、2年目の枝は暗紅紫色を帯びて光沢がある。葉は互生し、短柄があり、線状披針形、漸尖、縁辺に小鈍鋸歯あり、4月に葉に少しく先立って蕾を開く。花は短く、太い梗をもって枝に接着し、萼筒は鐘形、萼片は5片平開し、内面有毛、花弁は大小20数個、平開し、内部に多数の雄芯及び雄芯と花弁との各種の中間形のものがある。濃紅、純白の八重咲品種が普通で、所謂花桃と称せられる。果実は小形、有毛。

第3518図



いばら科

しだれざくら

一名いとざくら

Prunus Itosakura *Sieb.*
(=P. pendula *Maxim.*)

観賞用として栽植される落葉喬木。我国中西部に自生するウバヒガンの一品種で、枝が下垂する点が異なるだけである。その特異な樹形のため古くから社寺に植えられ、樹令が長く、高さ20m、径1mに達するものがあり、京都祇園のものは特に有名であった。太い枝は横にひろがるが、細い枝は細長く真直に垂下する。若枝、葉、花梗及び萼には毛がある。花は3月下旬ソメイヨシノに先立って開く。淡紅白花のものが普通であるが、紅色のもの（ベニシダレ）や八重咲も知られている。和名枝垂桜や糸桜は共に枝の下垂する性質に基ずいて名付けられた。

第3519図

いばら科

じゅうがつざくら

Prunus subhirtella *Miq.*
var. autumnalis *Makino*

観賞用として庭園に栽植される落葉樹で、ヒガンザクラの園芸的品種である。通常小木で、枝や葉にはわずかに毛がある。葉も小形で、長さ3-6cm巾1.5-3cm、側脈は約10対ある。10月頃から開花し初め、冬を通じて少しずつ咲き、4月になって最も多く花を開く。花は淡紅白色半八重で径1.5-2cm、花梗や萼には少し毛がある。冬に咲く花は小形で花梗が短かい。時に5枚の花弁をもった一重咲もあるが反って稀である。和名は十月桜又は四季桜の意味で、共に秋から開花する性質によって名付けられた。

第3520図

いばら科

ふげんぞう

Prunus donarium *Sieb.*
f. Fugenso *Makino*

最も古くから知られ広く植えられているサトザクラの代表的園芸品種の一である。落葉喬木で枝は太く無毛、葉は大きく縁に刺状に尖った鋸歯があり無毛である。4月中下旬に新葉と共に繖房花序をなして花を開く。花梗は長く垂れて無毛、花は大きく径5cm、紅色重弁で豊麗である。花弁は30-35枚。花心から2本の緑色の葉化雌芯が突き出してその先は少し反曲し普賢菩薩の乗った象の鼻の様であるというので、普賢象の和名ができた。一品に花色がうすく初め紅色で後白っぽくなるものがあり、シロフゲンという。